

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : メタクリル酸メチル  
整理番号 : M-002  
供給者の会社名称 : 旭化成株式会社  
住所 : 〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号  
日比谷三井タワー  
担当部門 : MMA事業部 MMA営業部  
電話番号 : 03-6699-3283  
FAX番号 : 03-6699-3460  
緊急連絡先 : 製造統括本部 川崎製造所 モノマー製造部 MMA製造課  
緊急連絡電話番号 : 044-271-2211  
推奨用途 : アクリル樹脂の原料等  
使用上の制限 : 食品・医療用及びその周辺材料への使用  
用途に関しては、「16. その他の情報」を参照  
国内製造事業者等の情報 : 旭化成株式会社

### 2. 危険有害性の要約

#### 化学品のGHS分類

##### 物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない	自然発火性固体	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない	自己発熱性化学品	分類できない
エアゾール	区分に該当しない	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない	酸化性液体	区分に該当しない
高圧ガス	区分に該当しない	酸化性固体	区分に該当しない
引火性液体	区分2	有機過酸化物	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない	金属腐食性化学品	分類できない
自己反応性化学品	分類できない	鈍性化爆発物	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない		

##### 健康有害性

急性毒性(経口)	区分に該当しない	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない	発がん性	分類できない
急性毒性(吸入：気体)	区分に該当しない	生殖毒性	分類できない
急性毒性(吸入：蒸気)	区分4	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (呼吸器) 区分3 (麻酔作用)
急性毒性(吸入：粉じん)	分類できない		
急性毒性(吸入：ミスト)	分類できない		
皮膚腐食毒性/刺激性	区分2	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 (呼吸器、神経系)
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性	区分2		
呼吸器感作性	区分1		
皮膚感作性	区分1	誤えん有害性	分類できない

## 安全データシート

### 環境有害性

水性環境有害性 短期（急性）	区分3	水性環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない		

### GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

:



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

- : H225:引火性の高い液体及び蒸気
- : H332:吸入すると有害(蒸気)
- : H315:皮膚刺激
- : H319:強い目刺激
- : H334:吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
- : H317:アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- : H370:臓器の障害（呼吸器）
- : H336:眠気又はめまいのおそれ（麻酔作用）
- : H372:長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（神経系呼吸器）
- : H402:水生生物に有害

注意書き

#### 【安全対策】

- : P202:すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- : P270:この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- : P233:容器を密閉しておくこと。
- : P210:熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。
- : P241:防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- : P242:火花を発生させない工具を使用すること。
- : P240+P243:静電気放電や火花による引火を防止するため、系外への  
抽出時は、アース線を使用すること。
- : P280+P271: 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
- : P284:換気が十分でない場合には呼吸用保護具を着用すること。
- : P280: 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- : P271:屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- : P260+P261:煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- : P264:取扱い後はよく手を洗うこと。
- : P272:汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
- : P273:環境への放出を避けること。

#### 【応急措置】

- : P303+P361+P353: 皮膚（又は髪）に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水（又はシャワー）で洗うこと。
- : P370+P378: 火災の場合には防毒マスク着用の上、粉末消火器、泡で消火する。

## 安全データシート

3/12

- : P304+P340: 吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- : P305+P351+P338: 目に入った場合は、直ちに流水で数分間注意深く洗眼し、速やかに医師の手当を受ける。コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- : P302+P352: 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
- : P362: 衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐことと取り除くこと。
- : P364: 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
- : P308+P311: ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- : P312: 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- : P321: 医師の手当てを受ける時は、本 SDS を提示する等、本製品に関する情報を医師に提供する。
- : P342+P311: 呼吸困難等症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けること。
- : P333+P313: 皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

### 【保管】

- : P403+P235: 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。

### 【廃棄】

- : P501: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者へ廃棄を依頼すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性：知見なし  
重要な徴候及び想定される非常事態の概要：知見なし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名又は一般名	: メタクリル酸メチル
慣用名又は別名	: メタクリル酸メチルエステル、MMA
化学式	: $\text{CH}_2=\text{C}(\text{CH}_3)\text{COOCH}_3$ (分子量 100.1)
CASNo.	: 80-62-6
濃度又は濃度範囲	: 99.8%以上
官報公示整理番号	: 化審法・安衛法 (2)-1036
GHS 分類に寄与する成分 (不純物)	: 無し
安定化添加物	: 有り

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気が得られる場所に移し、身体を毛布等で保温して、安静を保ち医師の手当てを受ける。  
呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合には、衣服の釦をゆるめ気道を確保して医師の手当てを受ける。

## 安全データシート

4/12

- 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣服、靴等を脱がせ、液に触れた部分を石鹸を用いて多量の水で洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合：直ちに流水で数分間注意深く洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。  
(まぶたを指で開き隅々まで洗眼する)  
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、はずして洗浄する。
- 飲み込んだ場合：意識がある場合は、吐かせ、直ちに医師の手当てを受ける。  
意識の無い場合は、直ちに医師の手当てを受ける。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：目、皮膚、気道を刺激し、皮膚につくと発赤、目に入ると発赤、痛みを生じる。吸入すると咳、咽頭痛、頭痛、眠気、息切れ、意識喪失を生じ、経口摂取すると吐き気、嘔吐を催す。皮膚が感作されることもある。
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項：  
マウスツーマウス法は、危険な為、人工蘇生機を用いる。  
保護手袋等を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項：医師の手当てを受ける時は、本 SDS を提示する等、本製品に関する情報を医師に提供する。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：粉末、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤：棒状注水
- 火災時の特有の危険有害性：発生する MMA ガスの吸引防止のため保護具を着用する。
- 特有の消火方法：初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を用いる。  
大規模火災には、泡消火剤等を用いて、空気を遮断することが有効である。棒状注水は、火災を拡大し、かえって危険な場合がある。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：  
消火作業は、風上から行い、必ず保護具(ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：付近を「立ち入り禁止」とし風下の人を避難させる。  
除去作業は、風上から行い、必ず保護具(ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用する。
- 環境に対する注意事項  
封じ込め及び浄化の方法及び機材：液及び廃液が河川に流れ込まないように注意する。  
漏れが少量の場合には、乾燥した土砂に吸収させる。  
又は、ウエス等でふき取り密閉容器等に回収する。  
漏れが多量の場合には、土砂、ウエス等で流れを止め、安全な場所で回収する。  
回収後、汚染された場所は、十分に洗浄する。
- 二次災害の防止策：付近の着火源となるものは、速やかに取り除く。  
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場への流入を防ぐ。

## 安全データシート

### 7. 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

- 技術的対策 : 保護具を確実に着用する。(ばく露防止及び保護措置の項を参照)  
取扱場所及び周辺の火気、静電気、衝撃火花などの着火源の存在を厳禁とする。  
容器を転倒、落下させて衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。  
静電気対策を行い、作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。  
作業終了後は手洗い等を行い、衣服に付着した場合は着替える。
- 局所排気・全体換気 : 容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気装置の設置場所で取扱う。
- 注意事項 : 蒸気及びミストを発生させないようにする。  
安全取扱注意事項 : 酸化性物質などの混触禁止物質と接触させないこと。  
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施すること。

#### 保管

- 安全な保管条件 : 換気良好な冷暗所に保管すること。  
タンク貯蔵の場合は30℃以下とする。(出来れば20℃以下)  
熱、火花、裸火などの着火源から遠ざけること。  
強酸、強アルカリ、酸化性物質から離して保管すること。  
タンク保管の場合は、夏期は散水等で温度上昇を防止する。
- 安全な容器包装材料 : 鉄、ステンレス等の金属製密閉容器に保管する。

### 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。

#### 許容濃度

日本産業衛生学会(2022年版)

- : 2ppm / 8.3mg/m<sup>3</sup>  
: 感作性；気道感作性分類(第2群)  
: 感作性；皮膚感作性分類(第2群)

ACGIH(2023年版)

- : 時間加重平均(TWA) 50ppm(205mg/m<sup>3</sup>)  
: 短時間ばく露限界(STEL) 100ppm(410mg/m<sup>3</sup>)  
: 感作性；SEN(クラス1)

#### 設備対策

- : 屋内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。  
取り扱い場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示すること。

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

- : 有機ガス用防毒マスク(環境中の濃度が高い場合は、送気マスク、空気呼吸器を使用する)

##### 手の保護具

- : 不浸透性ゴム手袋：直接皮膚に触れないように保護手袋を着用する。  
(PVA(ポリビニルアルコール)、LLDPE(低密度ポリエチレン)が好ましい。)

## 安全データシート

6/12

眼、顔面の保護具	: 保護眼鏡、ゴーグル(液の飛散があるときは、さらに顔面覆いの防災面を着用)
皮膚及び身体の保護具	: 帯電防止処理保護具、直接皮膚に触れないように、長袖の袖の閉まる作業服を着用する。耐油性の衣服、ゴム長靴が好ましい。

### 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体 <sup>1)</sup>
色	: 無色透明 <sup>1)</sup>
臭い	: かすかなエーテル臭
融点/凝固点	: -48°C <sup>1)</sup>
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 101°C <sup>1)</sup>
可燃性	: 引火性液体(引火点10°C)
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 下限2.1 Vol% <sup>1)</sup> 上限12.5 Vol% <sup>1)</sup>
引火点	: 10°C(密閉式) <sup>1)</sup>
自然発火点	: 421°C <sup>2)</sup>
分解温度	: データなし
pH	: 中性(pH=7)
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水: 1.59 % (20°C) <sup>2)</sup> その他の溶剤: アルコール、エーテルに可溶 <sup>4)</sup>
n-オクタノール/水分配係数	: log Pow=1.38 <sup>5)</sup>
蒸気圧	: 4.6kPa (20°C) <sup>2)</sup>
密度及び/又は相対密度	: 0.944 (20°C/4°C)
相対ガス密度	: 3.45 <sup>2)</sup>
粒子特性	: データなし
その他のデータ	: データなし

### 10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸化剤と接触すると発熱、発火する。
化学的安定性	: 重合防止剤を添加している為、通常取扱条件下では安定している。
75°C 蓄熱貯蔵試験 (SAPT 自己加速重合温度) *トバノールA: 10ppm時	: クラス4.1可燃性物質類・重合性物質とみなされない分類条件の内「輸送に使用される容器(小型容器、IBC容器又はポータブルタンク)に収納した状態でSAPTが75°Cを超える物質」
危険有害反応可能性	: 酸化剤と接触すると発熱、発火する。 : 高温、光照射で重合反応を起こすことがある。
避けるべき条件	: 直射日光、高温、長期保存
混触危険物質	: 過酸化物、強酸類
危険有害な分解生成物	: メタクリル酸、メチルアルコール

## 安全データシート

### 11. 有害性情報

引火性液体	: 引火点 10°C (closed cup)、沸点 101°C (GESTIS (Access on June 2017)) に区分 2 とした。なお、UNRTDG 分類は UN 1247 (安定剤入りのもの)、クラス 3、PGII である。 <sup>3)</sup>
急性毒性 (経口)	: ラットの LD50 値として、7,800 mg/kg (ACGIH (7th, 2015))、7,900 mg/kg、8,500 mg/kg、9,400 mg/kg (以上 ECETOC JACC30 (1995)) との報告に基づき、区分外とした。 <sup>3)</sup>
急性毒性 (経皮)	: ウサギの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (EU-RAR (2002)) との報告に基づき、区分外とした。 <sup>3)</sup>
急性毒性 (吸入：蒸気)	: ラットの 4 時間吸入試験の LC50 値として、7,093 ppm (ECETOC JACC30 (1995)、EU-RAR (2002)、ACGIH (7th, 2015)) との報告に基づき、区分 4 とした。旧分類は同じ LC50 値を区分外と判定し、ヒトでより低い濃度呼吸気道の刺激、脱力、発熱、めまい等の症状がみられたとの報告 (ECETOC JACC30 (1995)) に基づいて区分 5 と分類していたが、LC50 値のデータを再度精査し、区分 4 に該当することを確認したため、分類結果を変更した。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (38,614 ppm) の 90% よりも低いいため、ミストがほとんど混在しないものとして ppm を単位とする基準値を適用した。 <sup>3)</sup>
皮膚腐食性／刺激性	: 本物質を 5% 含むパラフィン又はオリーブ油を適用したボランティア試験で、20 名中 18 名に紅斑または湿疹性皮膚炎を認めたなど、ヒトにおける皮膚刺激性を示す複数の事例報告 (EU-RAR (2002)) がある。また、ウサギを用いた皮膚刺激性試験において本物質を 4 時間適用後、72 時間以内の紅斑と浮腫のスコアはそれぞれ 2~2.5、1.5~1 であり、7 日後の紅斑と浮腫のスコアはそれぞれ 2、0.5 であった (EU-RAR (2002))。よって、区分 2 とした。 なお、EU CLP 分類において本物質は、Skin Irrit. 2 に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on June 2017))。 <sup>3)</sup>
眼に対する重篤な損傷／目刺激性	: ウサギを用いた眼刺激性試験において、虹彩及び角膜には影響はなく結膜にグレード 2 の発赤が 24 時間後に認められたとの報告 (EU-RAR (2002)) や、流涙・充血・結膜などへの刺激性がみられたとする報告 (ACGIH (7th, 2015)) がある。詳細なデータがないことから細区分はできない。従って、区分 2 とした。 <sup>3)</sup>
呼吸器感作性	: 本産業衛生学会の既存分類 (感作性物質気道第 2 群) から、区分 1 とした (産衛学会許容濃度の提案理由書 (2012))。 <sup>3)</sup>
皮膚感作性	: モルモットを用いた感作性試験で陽性との報告 (EU-RAR (2002))、及び日本産業衛生学会の既存分類 (感作性物質皮膚第 2 群) (産衛学会許容濃度の提案理由書 (2012)) から、区分 1 とした。なお、EU CLP 分類において本物質は、Skin Sens. 1 に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on June 2017))。 <sup>3)</sup>
生殖細胞変異原性	: ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できな

## 安全データシート

8/12

いと。すなわち、in vivo では、マウスの優性致死試験で陰性、マウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性、ラットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験で陽性、陰性の結果である (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ACGIH (7th, 2015)、DFGOT vol. 26 (2010)、EU-RAR (2002)、SIDS (2002)、産衛学会許容濃度の提案理由書 (2012)、CICAD 4 (1998)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013)、IRIS Tox. Review (1998))。しかし、in vivo 染色体異常試験の陽性結果は信頼性に乏しいと評価されている。(EU-RAR (2002)、SIDS (2002))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、小核試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性であるが、これらの陽性結果は細胞毒性が出現した高用量での結果や用量依存性が認められない結果であり、in vitro での陽性判断は妥当ではないとされている (EU-RAR (2002)、SIDS (2002))。<sup>3)</sup>

### 発がん性

: アクリルシートの製造を行う米国の工場労働者を対象とした疫学研究において結腸がんによる死亡率の有意な増加がみられたが、労働者は本物質以外にもエチルアクリレートや揮発性の副生成物によるばく露を受けていたとの報告がある。しかし、本物質の製造を行う米国の工場労働者を対象とした疫学研究ではそのような影響はみられなかったとの報告もある (IARC 60 (1994)、DFGOT vol. 26 (2010)、ACGIH (7th, 2015))。一方、実験動物ではラットを用いた 2 年間飲水投与試験で投与による腫瘍発生頻度の増加はみられなかった (IARC 60 (1994))。また、ラット及びマウスを用いた 2 年間吸入ばく露による発がん性試験においてもラット、マウスともに発がん性の証拠は示されなかった (NTP TR314 (1986)、IARC 60(1994))。IARC は本物質の発がん性に関して、ヒトでの証拠は不十分で、かつ実験動物では発がん性がないことを示唆する証拠があるとして、グループ 3 に分類した (IARC 60 (1994))。この他、既存分類として EPA が NL (Not Likely to be carcinogenic to humans) に (IRIS (1998))、ACGIH が A4 に分類している (ACGIH (7th, 2015))。以上、IARC と ACGIH の発がん性分類結果に基づき、分類できないとした。<sup>3)</sup>

### 生殖毒性

: 妊娠ラット、又は妊娠マウスの器官形成期に吸入ばく露した発生毒性試験の殆どは胎児への影響はないか、又は軽微な影響 (胎児体重の低下) だけであった (DFGOT vol. 26 (2010)、ACGIH (7th, 2015))。うち、ラットの 1 試験では 1,000 ppm で早期/後期吸収胚の増加がみられたが、本試験は試験プロトコルの不備、記述不十分などの理由で EU におけるリスク評価には利用できないと判断された (DFGOT vol. 26 (2010))。また、旧分類 (区分 2) が分類根拠としたラットの催奇形性試験での母体毒性 (死亡、体重減少等) が発現する用量で、胎児毒性 (早期胎児死亡、頭尻長の減少、血腫の発生) がみられたとの試験報告は用量 (110,000 mg/m<sup>3</sup> (26,180 ppm)) が高すぎて評価に有用ではないと指摘されており (DFGOT vol. 26 (2010))、分類に利用するのは適切でないと考えた。以上、吸入経路では発生影響はほぼ軽微と考えられるが、生殖能・性機能への影響評価に関する情報がなく、データ不足のため (分類できない) とした。<sup>3)</sup>

## 安全データシート

9/12

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : ヒトではボランティアに本物質 48~480 ppm を吸入ばく露した試験で、20~90 分後に気道の刺激、脱力、発熱、めまい、吐き気、頭痛、眠気がみられたとの報告がある (ECETOC JACC30 (1995)、EU-RAR (2002)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。実験動物では、ラットにおいて、区分 1 相当の 100 ppm、2 時間 (4 時間換算値: 70.7 ppm) の吸入ばく露で肺胞間のうっ血、出血、肺血管拡張、肺水腫が認められたとの報告がある (EU-RAR (2002))。以上より区分 1 (呼吸器)、区分 3 (麻酔作用) とした。旧分類では区分 3 (気道刺激性) と分類していたが、実験動物で肺への影響が区分 1 相当の用量でみられていることからガイダンスに従い、区分 1 (呼吸器) を採用した。③

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : ヒトについて、結膜炎、萎縮性鼻炎、喉頭炎、咳の発生率と軽度の気道閉塞の増加、自律神経障害、神経衰弱、頭痛、眩暈、神経過敏、集中力散漫、記憶力の低下、高血圧、低血圧の報告がある (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))。実験動物については、区分 2 のガイダンス値の範囲内で影響はみられていない。ラットを用いた強制経口投与による 21 日間反復投与毒性試験において区分 2 のガイダンス値を超える 500 mg/kg/day (117 mg/kg/day) で神経系への影響 (自発運動・学習能低下、攻撃性増加、脳橋から延髄、海馬の生体アミン量増加、大脳皮質・線条体のノルアドレナリン増加、線条体のドーパミン減少、視床下部のセロトニン増加) がみられている (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))。しかし、この試験の最低用量であることからこの用量未満での影響が不明である。また、ラット、マウスを用いた 2 年間吸入毒性試験において、区分 2 のガイダンス値の範囲を超える用量で鼻腔の炎症、嗅上皮の変性等がみられている (環境省リスク評価第 11 巻 (2013)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。しかし、この試験の最低用量であることからこの用量未満での影響が不明である。以上、人において神経系、呼吸器に対する影響が認められていることから、区分 1 (神経系、呼吸器) とした。③

誤えん有害性 : データ無し (分類できない)

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性) : 甲殻類(オオミジンコ) 48 時間 EC50 = 48 mg/L (EU RAR:2002) であることから、区分 3 とした。③

水生環境有害性 (長期間) : 急速分解性があり (良分解性、BOD による分解度 : 94.3%(化審法 DB:1 蓄積性がなく (LogKow : 1.38(20°C) (環境省環境リスク評価(第 11 巻):2013))、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC (繁殖阻害) = 3.5 mg/L (環境省生態影響試験:2017)、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata)の 72 時間 NOEC (速度法) = 86 mg/L (環境省生態影響試験:2017) であることから、(区分に該当しない外) とした。③

残留性・分解性 : 微生物による分解性が良好とされた物質

## 安全データシート

10/12

生体蓄積性	: 生物濃縮係数(BCF) ; 2.3 <sup>6)</sup>
土壌中の移動性	: データ無し
オゾン層への有害性	: データ無し
他の有害影響	: BOD から算出した分解度 94% (区分に該当しない) (試験期間 2 週間、活性汚泥濃度 ; 30mg/L) <sup>7)</sup>
OH ラジカルとの反応性	: 文献無し

### 13. 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

廃棄は、①焼却法 ②活性汚泥法で行う。

- ① 焼却法 : メタクリル酸メチルを含有する廃油、廃水、スラッジ等は、そのまま又は可燃性溶剤と共に少量ずつ焼却炉に噴射して焼却処理する。
- ② 活性汚泥法 : メタクリル酸メチルの希薄水溶液に有効である。
- 処理を業者へ委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体が処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

#### 汚染容器及び包装

- 容器の廃棄に際しては、容器中の残液を確認し、残液は上記方法にて処理する。
- 容器は内壁を水で洗浄した後に廃棄する。この時、洗浄した排液は活性汚泥等の廃水処理システムで処理し、直接河川に排出させない。
- 作業の際は保護具を着用する。(ばく露防止及び保護措置の項を参照)

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

IMDG コード(国際海上危険物規則)

: ハザードクラス 3 容器等級 II

ICAO-TI(国際民間航空機関技術指針)、IATA-DGR(国際航空運送協会危険物規則)

: ハザードクラス 3 容器等級 II

国連番号 : 1247

品名(国連輸送名) : メタクリル酸メチルモノマー(安定剤入りのもの)

国連分類 : 3 (引火性液体)

容器等級 : II

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL73/78 附属書 II および IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

: Y (MARPOL 条約 附属書 II)

国内規制 : 下記の法令に従い、規定の積載方法、容器等によって輸送する。

消防法 : 危険物第 4 類(引火性液体)第 1 石油類非水溶性液体

## 安全データシート

11/12

- ・メタクリル酸メチルは引火性液体のため輸送、荷の積降ろしに関しては、消防法等の法令の定めるところに従う。
- ・タンクローリー及びタンク車で運送する時、輸送中に漏れが起こらない様に液の取出口のバルブ、フランジ面及び安全弁の点検をあらかじめ十分行う。
- ・輸送前に容器が密閉されているか、また液やガス漏れがないか確認する。
- ・容器の輸送および運搬は、常にしっかり固定した状態で行う。
- ・積み込み及び荷降ろしのための配管、ポンプ、車体などはアースを取り、静電気を除く。
- ・輸送車には、運行上並びに保安上必要な保安用具(携帯品)を具備すること。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

- ・車両によって運搬するときは、輸送車に運行上並びに保安上必要な携帯品を具備すること。

\* 主な携帯品

- (1) イエローカード
- (2) 保護具(ばく露防止及び保護措置の項を参照)
- (3) 消火器
- (4) 漏洩時の回収用具・用品(砂、ウエス、ロープ、バケツ等)
- (5) 緊急連絡ルート、資格免状類 等

緊急時応急措置指針番号 : 129P

15. 適用法令<sup>13)</sup>

労働安全衛生法	: 危険物・引火性のもの(施行令別表第1第4号) : 名称等を表示及び通知すべき有害物(法第57条、法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 No.557) : 皮膚刺激性有害物質 則第594条の2第1項 施行通達記の第4の8 (2) メタクリル酸メチル (令和6年4月1日施行)
労働基準法	: 疾病化学物質 (法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号) 感作性を有するもの (法第75条第2項、施行規則第35条 別表第1の2第4号、平8労基局長通達、基発第182号)
化審法	: 一般化学物質
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 「メタクリル酸メチル：第1種指定化学物質 政令番号第420号」 (法第2条第2項、施行例第1条別表第1)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第2条第7項危険物別表1第4類第1石油類非水溶性液体 (指定数量=200L)危険等級II(規則39条の2)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

## 安全データシート

12/12

船舶安全法	: 引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(法第2条第13項)(中央環境審議答申、1996.10.18) (207 メタクリル酸メチル) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
港則法	: 危険物・引火性液体類(法第21条2、施行規則第12条)
道路法	: 水底トンネル通行制限(法第46条第3項、施行令第19条の13該当)

### 16. その他の情報

#### 引用文献

- 1) 15710の化学商品(化学工業日報社 2010年版)
- 2) 化学防災指針集成I (日本化学会編・丸善)
- 3) NITE 統合版 政府によるGHS分類(2017年度実施)
- 4) 産業中毒便覧(増補版)(医歯薬出版)
- 5) IPCS(Environmental health criteria 154)
- 6) 環境省 化学物質リスク評価
- 7) 既存化学物質安全性(ハザード)評価シート96-35
- 8) 「日本産業衛生学会(2022年版)」
- 9) 「ACGIH(米国政府産業衛生専門家会議)(2023年版)」

#### 参考文献

- 1) 「JIS Z7252(2019年) GHSに基づく化学物質等の分類方法」 日本規格協会
- 2) 「JIS Z7253(2019年) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」 日本規格協会

#### SDS問い合わせ先

- ・旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所
- ・担当部門 モノマー製造部 MMA製造課 担当者 MMA製造課長
- ・連絡先 TEL 044-271-2211 FAX 044-271-2209
- ・住所 神奈川県川崎市川崎区夜光1-3-1

#### 記載内容の取扱い

本安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しておりますが、今後新しい知見により改訂されることがあります。また、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。

当 SDS 中の注意事項は通常取扱い(アクリル樹脂の原料等)を対象にしたものです。本製品を通常取扱い以外で使用されたい場合は、仕様が用途に合致しない場合もありますので、事前に弊社にご相談ください。特に人体組織や体内流体と接触する用途や医療用の素材・部品に使用される場合、また、本製品を食品や医薬用途と接触する包装材に使用される場合は、弊社は安全性の評価を実施していないため、用途としての使用を推奨しておりません。

また、弊社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。